

平成28年度「高校生社会参加促進事業」の取組概要

番 号	9	学 校 名	西和養護学校
-----	---	-------	--------

1. 取組名

桜ヶ丘つながりプロジェクト

2. 活動内容

(1) 授業「流通サービス」の一環として

本校が開校して5年目の平成23年4月から、「流通サービス」の授業を設定した。授業の目標の一つに、「働く中で自己実現していくために、模擬販売や清掃等に関する実習をとおして、社会との基本的なつながりを知り、他者から認められ感謝される仕事ができるようになる。」を掲げている。この目標の中にある、「…実習をとおして、社会との基本的なつながりを知り…」とあるように、授業では、校内だけでなく校外に出て行くことや、地域とのつながりを大切にしていきたいと考えている。



「桜ヶ丘つながりプロジェクト」は、この「流通サービス」の授業の取組である。

(2) 取組の概要

高等部は、「農耕」の授業で夏野菜、冬野菜等を栽培している。「農耕」で、栽培から収穫までを行い、2年生の「流通サービス」で地元の方に模擬販売として提供している。当初は、学校最寄りの桜ヶ丘3丁目公園まで出向いていたが、学校評議員の方からのご指摘により、2年前からは1丁目東公園にも出向いている。ご指摘とは、「今まで近くにあったスーパーがなくなり、高齢の方が遠くまで買い物に行かなければならなくなったので、1丁目まで来ることはできないか。」という旨であった。本年度は、3丁目に4回、1丁目に2回出向いた。

地元の方と対面して接客するには、あいさつする、野菜の説明をする、丁寧に話す等のコミュニケーションの力を駆使しなければならない。つまりは、教室で学んだことを実践する場になっている。また、緊張した接客は、やり終えた後の充実感・達成感につながり、やがては自信へとつながっている。1学期当初にはできなかった自主的なあいさつが、取組の回数を重ねる中でできるようになっていく生徒は多い。



生徒の声としては、事後学習でのアンケートに、「最初は緊張したけど、うまくできました。」「一番大変だったのは声かけです。でも野菜は全部無くなったので良かったです。」等の回答を寄せていた。

3. 成果と課題

先にも記したが、地域の方に自分からあいさつができる生徒が増えた。はっきりと元気よく、自分からあいさつできる習慣や態度は、働く上で身につけなければならない最も基本的な態度である。コミュニケーションの力をつけることも同様である。これらは、校内の学習を補完する形で取り組めた。しかし、それだけで人から感謝される仕事ができるわけではない。2年生にとっては残り1年を、社会への参加活動をとおして、「不安や緊張はあるけれど、やればできる達成感と自信とがつく」経験を積み上げさせたい。そのために授業内容の更なる検討を進めたい。

また、取組の名称どおり、地域の方とのつながりが少しずつ広がり、本校の生徒、さらには本校教育の理解啓発につながっていく取組を展開していくことが次の課題である。